



編集後記 From Editor

お昼の休憩時間に
(東京・隅田川の永代橋附近)

食品の偽装事件や振り込め詐欺の横行などが盛んに言われ、最近は何人かの暮らしの中にも、危機管理意識をもつことが求められるようになってきた。我々消費者は、保護されるだけの対象ではなく、ときには相応の自己責任を問われる存在でもあるということだ。だから、これからの時代、賢明な消費者としての能力を育成する教育が必要だという声が高まっており、それが健全な消費社会の形成にもつながると期待されている。

さらに、本誌今号の対談で西村隆男氏は、消費者市民のネットワークの動向がこれからの社会のあり方を大きく変えていく可能性をもつことを指摘されている。今、持続可能な社会へ向けて、世界中で消費者市民のあり方やその教育の重要性が注目されているということである。

日本はかつて、世界の中でも社会に対する信頼が厚い国だったと言える。しかし今、それは大きく揺らいでいる。年金不信をはじめ、個人の老後や医療への不安はぬぐえないし、現状のままでは少子化を止めることも難しい。少子高齢化が進み、単身世帯がさらに増えていくとき、今後どのような社会状況が生み出されてくるのだろうか。地域や家族と切り離され、ただひとり社会に放り出されるようなことになりはしないかという漠然とした不安を多くの人たちが感じているようだ。

世界的な不況の下、若者の就職活動も困難な状況にある。安定志向でなく、若いからこそリスクがとれるのではと言うのは簡単だが、皆それぞれに、自分の未来を考え、模索しているのだろう。仕事は生活の糧を得るためのものであり、同時に自己実現の場でもある。さらに、大庭健氏が本誌で述べているように、その最も重要な意味のひとつは、「相互に依存しあう働きのネットワーク」に加わるということでもある。

これからの暮らしにおいて、自立した個人として互いの差異を認め合つたまま、緩やかなつながりを大事にしていきたい。それが共生ということに結びついていくだろう。人は一人では生きてはいけない。もう一度原点に戻り、人とのつながりの中で生活していくことを捉え直してみたい。「自立と共生の生活設計」を考えると、これは、これからの個人と社会のあり方を深く考えていくことにもつながっていくと思われる。

—— 京 雅也

表紙写真 大阪府、消費者団体ほか関係諸機関が連携して今年5月に開催された「消費者フェア2009」では、大学生による人形劇やNPOの体験教室などが人気を集めた裏表紙写真 芝生の広場にて(奈良公園)／地域の人をつなぐプリペイド方式の「つれてってカード」(長野県駒ヶ根市)／路地を歩く子どもたち(埼玉県川越市)

CEL 89号 特集 ■ 自立と共生の生活設計

発行 ● 平成21年7月1日 頒価 1,000円(送料別途)

■ 発行 大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所 (CEL)
〒541-0046 大阪市中央区平野町4-1-2
■ 発行人 多木秀雄 Hideo Taki
■ 編集人 京 雅也 Masaya Kyo / 弘本由香里 Yukari Hiromoto

編集 ● 関西ビジネスインフォメーション(株) 内 CEL編集室
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18
住友中之島ビル7F TEL.06-4803-2307
印刷・製本 ● 日本写真印刷株式会社

RESEARCH INSTITUTE FOR CULTURE, ENERGY AND LIFE © 2009 OSAKA GAS CO.,LTD.

禁無断転載複写

※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも小社の見解を表すものではありません。

本誌・バックナンバーのコンテンツや当研究所の活動内容はインターネットホームページ [http://www.osakagas.co.jp/cel/] でご覧いただけます。

本誌に関するお問い合わせ、ならびにご購読申し込みや送付先変更等のご連絡は CEL編集室 Tel.06-4803-2307 Fax.06-4803-2210 cel@kbicom.net まで